

人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

施設名： 一般財団法人健康予防医学財団 みなと健診クリニック

受審施設の概要

みなと健診クリニックは、JR品川駅より徒歩3分のビルの2階に位置し、平成25年10月に平成18年から運営していた武蔵野大学看護学部より業務を引き継いだクリニック併設型の健診施設である。年間の受診者数は1日ドック約7,700人（うち、約6,200名は胸部X線検査1方向での契約であり、約1,500人は胸部X線検査と胸部CT検査を併用している）、生活習慣病予防健診等のその他健診は約9600人で巡回健診は実施していない。受診者数は前回評価以降増加傾向にある。前運営者時代の平成21年度に初回の認定を受け、今回が2回目の更新審査である。

第1領域 理念達成に向けた組織運営

理念と基本方針並びに受診者の権利と責務明文化されており、毎年見直しが行われている。

個人情報保護に向けては、個人情報保護法方針が明文化されている他、職員研修の年間計画での実施等適切である。就業規則等各種規程は、整備されており、職業倫理については服務規定への記述と懲罰規定の適用を会議で判断することで対応されている。

中期経営計画・年度事業計画・予算書等は、5年の中期計画を策定しそれに基づく年次計画と予算並びに年度事業報告が作成され、職員にも周知されている。

職員の体制は、人間ドック健診指導医であった所長の定年により、現時点では常勤の人間ドック認定医が不在だが、2020年の年初には2人の医師が認定医取得予定でとなっており、着実な取得が望まれる。その他専門資格の取得状況や事務職員の配置に関してはおおむね適切である。

教育体制については、年間計画に基づき適切に必要な研修が行われている。採用時研修では、服務規程や情報管理などが主な研修内容である。

医療安全管理体制については、医療安全管理委員会が設置されマニュアルも整備されている。インシデントの事例は報告後すぐに検討され、対策が講じられている。対策の実効性について今年度から、一定期間後に検証するシステムを取り入れており今後の成果に期待したい。職員健診の実施やワクチン接種などの実務面は、ほぼ問題なく行われている。衛生委員会の運営に関しては、今回の受審を機に適切に整備された。

情報の管理体制は、指紋認証によるサーバー室への入退室管理やパスワードによる健診システムへのアクセス管理等適切であり、トラブル発生時のマニュアルも整備されている。

委託業務の管理では、清掃に関してはテナントビルの契約に基づく清掃業者が入っているため、基礎的な感染に関する知識の教育は行われていないとのことであるので、業者による従業員教育などの対応が望まれる。

高齢者や障害者等、配慮が必要な受診者への対応については、全館がバリアフリー化され、車いすでの移動も容易である。障害を持つ方へは職員がマンツーマンで対応する体制がとられており適切である。

外国人受診者については、受け入れ条件が定められており利用事業所等にも周知されている。英文による書類や実施マニュアルも整備され、月平均で4～5人程度が受診している。

第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

予約・受付の業務は担当者が明確で手順書に沿って行われており、会計処理は総務課の経理担当者が行き、財務諸表を作成して毎月の運営会議や隔月の財団運営ミーティングで報告・検討されている。

人間ドック学会が提示する基本検査項目は実施されている。契約によっては、胸部X線検査に加えCTも基本項目に含まれる人間ドックコースの設定もある。年1回、運営会議にて検査項目等の見直しを行い、各種ミーティングにて報告され、スタッフ間の情報共有ができています。

受診環境では、表示されている受付時刻より早い7時45分から受付を開始し、待ち時間の短縮に工夫がみられる一方、計測・採血はパーティションで仕切られているものの気分不良者用のベッド設置状況とともに、配置検討の余地がある。

受診に関する事前の情報提供は、受診者へ十分に行われており、種々の問い合わせへの対応も、マニュアルとしてまとめられている。受診当日は、保健師・看護師による医療面接が行われ、得られた情報はシステム内で共有され、その後の質の高い健診に寄与している。また、内視鏡検査では事前に説明書が渡され、署名による同意を得ている。急変時の対応としては、第1発見者がフリー業務担当者に連絡し、院長（または医師）に報告し、対応している。

精度管理体制は適切で、外部精度管理サーベイへも参加し良好な成績を得ており、画像精度管理サーベイにも参加しているが、マンモグラフィや内視鏡学会の認定については今後取得を目指されているとのことである。結果判定は、人間ドック学会の判定区分に基づき行われている。心電図の判定については、必要に応じての循環器専門医への依頼だけでなくさらに専門医の関与を強化していくことを期待する。

医師による結果説明は、当日に65.7%と実施率は低い画像の説明も含めた全ての項目について説明が行われている。今後さらなる実施率向上に期待したい。

保健指導は、業務手順に基づき標準化され、内容は生活・栄養・運動・禁煙・減酒などの各種指導や、受診勧奨・医療機関紹介など多岐にわたりスタッフ間で適宜、検討している。実施率は前年度までは0.6%であったが、今年度13%まで上がってきている。さらに実施率を向上させるとともに、指導結果を次年度以降に活用出来る体制の整備を期待したい。

第3領域 継続的な質改善の取り組み

受診者の要望を把握する体制としては、ご意見箱があるが人目に付く待合の受付カウンターから見えるところに設置されており、回収率は約10%とやや低率であり、設置場所の検討が必要と考える。回収されたアンケートは毎月1回のサービス向上委員会で検討し、回覧や掲示により、スタッフ間で情報の周知徹底を図っている。

フォローアップについては、把握のためマニュアルに則り結果報告書と合わせて返信用封筒を同封し、返信封筒の返送が3か月以内でない場合は、再送している。返送された結果は健診システムに保存され、次年度以降の健診に活用している。集計や検討も積極的には行われ、結果はホームページ上に掲載し、フロアの雑誌置き場にもファイリングされ、誰でも閲覧できるようにしてある。要精検率はマンモグラフィおよび乳腺超音波以外の実施把握率は60%未満であった。今年度、実施把握率10%未満の便潜血検査には改善策をとり、11月時点で69%と大きく改善されたことは評価できる。他の項目に関しても同様にさらに把握率を向上させていく必要がある。追跡検査では糖尿病関連は整備が進んできているが、脂質関連に関しては次年度のシステム改善を受けて取り組むこととされており、今後の取り組みに期待したい。

紹介医療機関やかかりつけ医との連携は適切に行われている。

健診結果の分析は継続的に行われており、各種学会への調査協力をはじめ日本人間ドック学会「人間ドック健康施設の実態調査」へ協力されており、日本人間ドック学会には演題の報告もされている。

受診者に向けた有用な情報提供としては、四半期ごとの「みなと健診クリニック通信」の発行や産業衛生セミナーなどに取り組まれている。今後は、地域住民への健康サポート情報の発信などにも取り組まれることを期待したい。

健康経営にむけた取り組みとしては、契約事業者との連携や求められる情報受け渡し方への対応など、営業担当者を窓口適切に行われている。

業務改善の体制としては、目標管理を主体とした改善の取り組みを進めており成果も上がっている。前回の指摘事項の内、結果説明実施率や保健指導実施率など大幅に改善されているが、まだ改善途上の事項もあり、引き続きの取り組みが求められる。

総括

前回受審時から、所長をはじめ多くの管理者が交代している中で、前回の評価受審以降着実に改善を進めてきていることは評価できる。今回の受審を機構築、強化された保健指導や事後フォロー体制については、今後の継続的な取り組みが期待される。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定更新に値すると判断する。

審査日 2019年 5 月 9 日

認定承認日 2019 年 5 月 25 日